

発注企業動向調査結果

-2024.6-

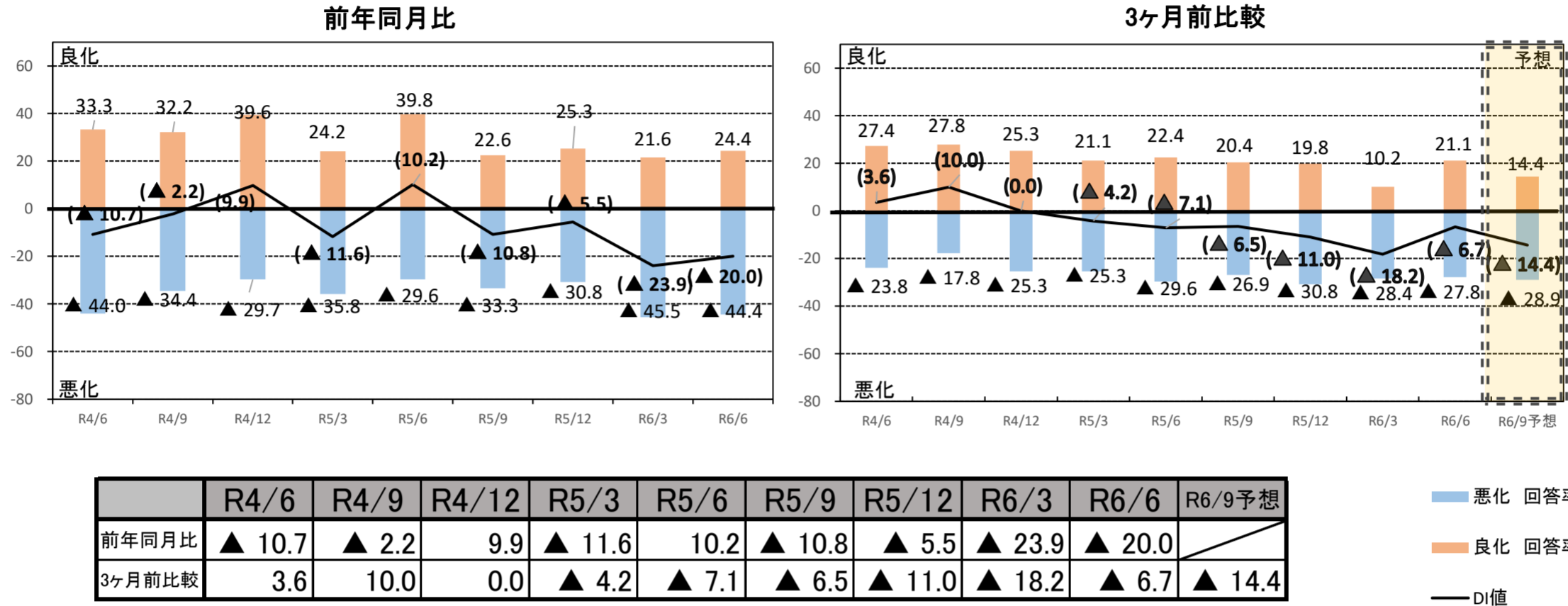
- 調査時点 令和6年6月調査(令和6年6月末時点)
- 対象企業 150社
- 調査時期 4半期毎(3、6、9、12月末時点)
- 回答企業 90社(回答率:60.00%)

<業種内訳>

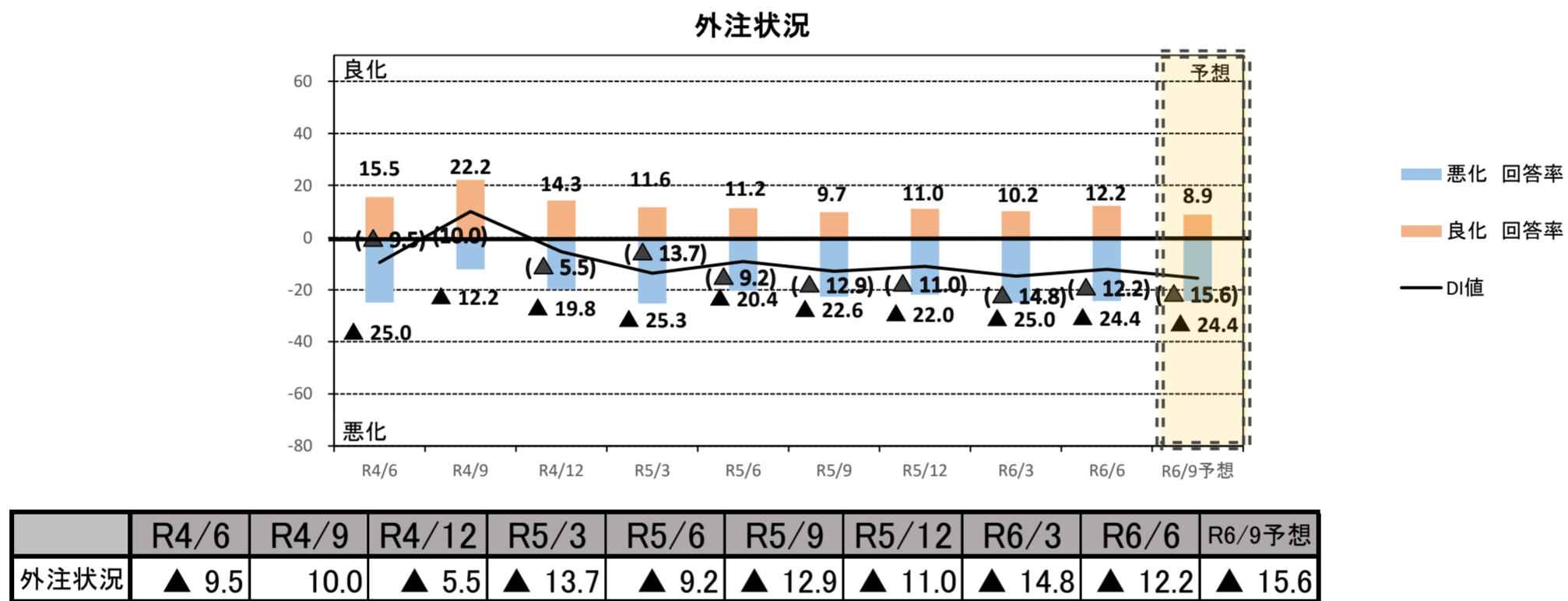
プラスチック	9社
鉄鋼・非鉄	10社
金属製品	8社
一般機械器具	15社
電気機器	22社
輸送用機器	19社
精密機器	5社
縫製	2社
計	90社

DI(Diffusion Index)とは、景気の動きをとらえるための指標であり、良化と回答した企業の割合から、悪化と回答した企業の割合を減じた数値です。

●生産高



●外注状況



●概要(総合)

- ・生産高(前年同月比)のDIは▲20.0で前回の▲23.9から3.9ポイント増となった。
- ・生産高(3ヶ月前比較)のDIは▲6.7で前回の▲18.2から11.5ポイント増となった。
- ・外注状況(3ヶ月前比較)は▲12.2で前回の▲14.8から2.6ポイント増となった。
- ・3ヶ月後の予想DIは生産高が▲14.4、外注状況が▲15.6という予想になった。
- ・その他自由意見として、
 - ・現時点で受注は好調維持している。しかし、材料費値上がりの影響で注文の伸び悩みが予想される。
 - ・今年度は品質保証方法強化のため、作り込みを含め、年間通し増産傾向となる。過度な残業回避のため増員を予定している。
 - ・EOLに伴う前倒し生産と積み上げ生産で繁忙工程がある一方で、集約される工程もある状況となっております。
 - ・'24年第四四半期以降全体的に受注減傾向。
 - ・'24年第三四半期～長期受注案件が海外展開となり、'25年第一四半期～半減することが予想される。
 - ・車載器関係受注が車業界問題で半年遅れ気味となっている。
 - ・取引先からの納期延期や在庫調整による受注減の状況である。同業他社も同じような状況で、休業体制を取っている話もある。しばらく厳しい状況が続く。
 - ・電線不足が解消し、銅価急騰も重なり、需要が減少したためか低調。
 - ・横ばい。伸び悩みの状況です。
 - ・トラック部品(特に大型車向け)が減少しているので、売上が減少している。
 - ・生産高、材料費値上げ分を差し引けば不変。
 - ・技術職の担い手が減少し、人手不足が深刻化している。

という意見が寄せられた。